

野菜栽培 I

講師名	皆川 歌織	実務経験等	農業改良普及センターでの普及指導員としての経験を活かし、野菜栽培の基礎や、野菜産地の先進的な生産・経営、試験研究機関の取組についての講義を担当している。
-----	-------	-------	--

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
農産園芸学科・専門科目	農産園芸・野菜	必修	1	通年	150	10
使用教科書・副教材	新版 野菜栽培の基礎(農文協)、野菜づくり大辞典(成美堂出版)、図解でよくわかる植物工場のきほん(誠文堂新光社)、楽しく作ろういわての恵み(岩手県農業改良普及会)、トマトの長期多段どり栽培(農文協)、ハウスの環境制御ガイドブック(農文協)、2019年度野菜栽培技術指針(岩手県)等					
授業の目的	野菜栽培の基礎、野菜産地の先進的な経営体などの取り組みについて学ぶ。また、2年次で取り組む卒業研究に対する理解や意識を高める。					
授業の到達目標	野菜の生理・生態や栽培技術、野菜生産の現状や課題を理解し、卒業研究計画や作業計画を作成する。					

月	学習項目	学 習 事 項	時間	授業 形式	備 考 (提出物等)
4	ガイダンス、野菜の生産と利用	授業の概要、進め方を説明する。野菜の種類、生産と消費の動向などを理解する。	2	講義	
	野菜の育苗	果菜類や葉茎菜類の育苗、セル成型苗の育成方法など、野菜の育苗技術を理解する。	4	講義	
5	野菜の育苗施設と環境制御技術	果菜類苗の供給体制について学ぶ。(5/13)	4	事例研究	レポート
5~8	野菜の生育と品質	種子と発芽、根の発達、茎葉の成育、花芽の分化と発達、果実の肥大、休眠と休眠打破など、野菜栽培の基本について理解する。	6	講義	
		野菜の品質とその管理方法などについて理解する。	2	講義	
	野菜の調査研究	日本農業技術検定の取得をめざし、過去の問題等により、体系的な理解を深める。	6	講義	
6	沿岸南部の環境制御技術と試験研究	農大祭などに出品する野菜について調査・研究し、計画作成や調査手法などを理解する。	4	講義 演習	
7	沿岸南部の環境制御技術と試験研究	環境制御技術を導入して果菜類を生産している法人や試験研究機関の取組について学ぶ。(6/11)	8	事例研究	レポート
	県央部の野菜生産	県央部における果菜類生産の取組について学ぶ。(7/6)	8	事例研究	レポート
9	沿岸北部の野菜生産	沿岸北部における葉根菜類生産の取組について学ぶ。(7/12~13)	16	事例研究	レポート
	県北部の野菜生産と試験研究	県北部の大規模葉根菜類生産や試験研究機関の取組について学ぶ。(9/6)	8	事例研究	レポート
9~11	野菜の栽培と環境管理	野菜の生育環境、土壌管理と施肥、被覆資材の利用などについて理解し、肥料計算方法を習得する。	6	講義	
		施設生産と環境管理、養液栽培技術、スマート農業における野菜生産の複合環境制御の概要について理解する。	10	講義	
		野菜生産における病害虫防除、雑草の防除などについて理解し、農薬調製方法を習得する。	6	講義	
	野菜の調査研究	日本農業技術検定の取得をめざし、過去の問題等により、体系的な理解を深める。	8	講義	
11	首都圏の流通・販売と育種開発	農大祭などに出品する野菜について調査・研究し、計画作成や調査手法などを理解する。	8	講義 演習	
11	首都圏の流通・販売と育種開発	首都圏における野菜の流通・生産や野菜育種の現状などについて学ぶ。(11/10~12)	24	事例研究	レポート
12~2	卒業研究計画の作成	卒業研究の課題選定や進め方を学び、計画作成に向けた知識を深める。	20	講義 演習	
合計			150	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

学習態度、出席状況、提出物の内容により評価する。
 筆記試験: 70%
 平常点: 30%(学習態度、出席状況、提出物)

履修に当たっての留意点等

受講に際しては、教科書や参考資料で予習しておくことが望ましい。授業は教科書を中心に進めるが、講義の内容により、自作及び学生のレポートで行う。天候や野菜の生育状況により、ほ場での実習に変更する場合がある。